

2021年度

事業報告

自 2021年 4月 1日

至 2022年 3月31日

公益財団法人 正力厚生会

〔がん患者支援事業〕 計1541万1631円（予算2185万円）

＜患者団体への助成＞

全国のがん患者会や支援団体を対象に一般公募で活動資金を助成する事業で、31団体に助成（うち1団体は途中辞退）した。新型コロナウイルスの感染拡大が続き、会場に人を集める講座や「がんサロン」などの開催が困難となったため、前年度に続いて事業期間の1年延長を認めたところ10団体が申請した。

残り20団体からは、オンラインイベントや冊子制作、ホームページ改修などの事業報告書が届いた。講演会を会場とオンライン配信のハイブリッド開催としたり、家庭で作れる患者用タオル帽のオンライン講習会を開いたり、たくみにコロナ対応する団体の活動が見受けられるようになった。

（予算814万5000円、支出791万5112円）

＜医療機関への助成＞

がん情報ギフト連携プロジェクト（500万円）

図書館へがん情報の冊子セットを寄贈し、地域の拠点病院との連携を図って、図書館に正しいがん情報普及の窓口役を担ってもらう事業。一般からの寄付を基にした国立がん研究センターの「がん情報ギフト」事業の発展強化を目指し、2019年度から助成を始めた。

2021年度は冊子セット寄贈のほか、島根県隠岐の島町と愛媛県宇和島市、沖縄県で、拠点病院の相談支援センターや保健所と図書館が連携して、がん情報普及を図る活動を展開。その実践報告とパネルディスカッションによる研修会を11月13日にオンライン開催した。この様子は、11月に同じくオンライン開催された図書館総合展で1か月間、動画配信された。

さらに、がん関連書籍・展示パネルの巡回展示は全国の図書館に希望を募ったところ、80館以上から希望があり、今後、巡回用セットを増強することになった。

がんの在宅療養支援プロジェクト（100万円）

帝京大学医学部などによる「がんの在宅療養支援プロジェクト」は、ウェブサイトでは在宅療養経験者の体験談や医療関係者からの応援メッセージを集めて公開。過去のフォーラム等の会議録では補足や新しい関連情報を追加した。また、当事者の患者・家族や医療・介護関係者向けに、「在宅がんウィット」と名付けたQ&Aサイトも開設した。

（予算600万円、支出600万円）

<読響ハートフルコンサート>

がん患者やその家族の心を癒すため、読売日本交響楽団員を全国各地のがん診療連携拠点病院に派遣し、弦楽四重奏などを披露する事業。前年の2020年度が新型コロナウイルスで全8会場とも中止となったため、それらを含む12病院で開催する計画を立てたが、12月14日の国立病院機構四国がんセンター（松山市）を除く11病院は中止となった。うち3病院については感染者が減ってきた11月から日程を再調整し、1～2月にかけて延期開催を計画したが、直前のオミクロン株拡大で再度中止せざるを得なかった。

2022年度もコロナ感染再拡大の懸念が残ることから、会場数は例年並みに絞り、感染状況次第で日程延期にも柔軟に応じられるようにする方針。

（予算770万5000円、支出149万6519円）

以上